

彩発見。早掛沼公園「市民による市民のための桜公園」

平面図



公園の特徴

早掛沼に囲まれた本公園は市民が市民のために整備した公園であり、下北地方を代表する桜の名所として、花見の時期には多くの市民が訪れる公園となっています。

また、風致公園として、訪れた方々に花鳥風月・四季折々の自然景観を楽しんでいただくことを目的とする公園に位置付けられており、自然の趣や味わいを感じること、人と人、人と自然との交流を図ることのできる公園となっています。

沼を要する当公園には野鳥も多く訪れ、アオゲラやヤマガラなどの留鳥のほか、渡りの季節にはツグミなどの小鳥類、オジロワシなどの猛禽類、コガモなどの水鳥も観察できます。

公園の歴史

- 1760年頃 早掛堤を築く。
- 1957年 市民から約4町歩を無償賃貸。
田名部商業協同組合員とその家族で雑木の抜根・整地し吉野桜800本を植樹したが、250本が虫害を受けた。
- 1958年 桜400本補植。道路・ベンチ・休所整備。
- 1959年 ビニールの造花をつけて花見。
- 1960年 早掛沼公園保勝会を設立。
- 1963年 日本桜の会より『御衣黄桜』寄贈。
- 1964年 4月1日公園開設。
- 1968年 十勝沖地震により堤防決壊。
- 1969年 3月29日供用開始。
- 1972年 8月水害で被災。
- 1976年 風致公園として都市公園に指定。
- 1997年 早掛沼公園に隣接し早掛レイクサイドヒルキャンプ場開設。

現況：施設の老朽化、砂利敷きの園路

管理棟、屋外ステージ、東屋、孔雀小屋、あひる小屋などの施設が老朽化しています。
また、園路や駐車場が砂利敷きのため、高齢者や車いすの方が利用しづらい状況となっています。

コンセプト

みどりに囲まれながら多種多様な“彩り”を発見できる場所として、自然や地形を活かした公園とします。

みどりの管理方針

市民による市民のための桜公園として、桜を中心とした管理を進めます。
桜はソメイヨシノ・シダレザクラ・ヤエザクラ・豆桜のほか、淡い緑色の花を咲かせる御衣黄桜という珍しい品種もあり、春には多くの市民が花見に訪れます。桜の管理は、業務委託による日常管理のほか、むつ市桜満開プロジェクトの一環として市民協働で行う『花咲か大作戦』で肥料を与えたり、桜の花芽を守るアマルリペラーの取付を行うなど、市民と一緒に育て、市民一人一人が『わたしたちの桜公園』として愛着を持ってもらえることを目指します。
マンサク・ツツジ・カエデなど、桜以外の植物についても適切に管理し、チューリップ・サルビア・プリムラなどの花を園路沿いに植栽することで、四季を通じて彩りのある公園を目指します。また、倒木の危険性がある樹木については、随時専門業者の判断を仰ぎながら対策を推進していきます。

施設の管理方針

イベント主催団体による駐車場改良等、官民連携・市民協働による施設管理を推進します。
また、風致公園の景観を守るために過度な整備は行いませんが、耐用年数を超過し老朽化の著しい噴水をリニューアルすることで、維持管理費の低減とともに、花咲か大作戦に楽しさを加えて公園を通じたコミュニケーションを生み出す都市農園とするなど、老朽化した施設については財政運営を踏まえながら、リニューアルを推進します。
【バリアフリー化】

トイレは2010年及び2012年に、冬期間も利用可能なバリアフリー対応のものに改修しました。
今後は園路や駐車場についてもバリアフリー化を進め、高齢者や車いすの方も利用可能な公園を目指します。

【電気設備】
桜のライトアップやアマルリペラーの電源確保のため、屋外コンセントの設置を検討します。

【遊具】
多くの遊具は配置せず、自然を楽しむことを目的とした公園とします。

イベントによる賑わい創出

4～5月にむつ観光協会主催で開催される「むつ桜まつり」のメイン会場となるほか、8月のチャリティトラックまつり、9月の下北地区測量技術研修会など、年間を通じて多彩なイベントが開催されており、賑わい創出につながっています。今後も、早掛ならではの起伏や自然を活かしたイベント等を応援し、積極的な活用を推進していきます。

イメージ



満開の桜



チャリティトラックまつり



花咲か大作戦